

令和4年度(2022年度)事業計画書

令和4年(2022年)1月1日～令和4年12月31日

令和4年度事業計画について、定款に基づき下記の事業を行う。

1. 日米草の根交流サミット2022 和歌山大会の開催
2. 日米草の根交流サミット2023 オハイオ大会の開催準備
3. 日米草の根交流サミットオンライン同窓会2022の開催
4. 日米草の根交流サミット2024年以降の開催準備及び開催地発掘
5. 広報活動

1. 第30回日米草の根交流サミット2022 和歌山大会の開催

開催地: 和歌山県内各地

共催団体: 和歌山県

開催時期: 2022年10月第2週又は第3週

内容: コロナ禍の影響で2年連続のサミット大会開催中止を経て、第30回日米草の根交流サミット2022 和歌山大会として、和歌山県内全域の市町で開催する。主催は、CIE、CIE-US、和歌山県。

【 和歌山大会の概要と準備 】

和歌山県知事 仁坂由伸氏、副知事 下宏氏、株式会社宮本工業相談役 宮本次朗氏、和歌山日米協会専務理事 藪添泰弘氏らの協力を得ながら、県庁国際課に事務局を置いて式典準備及び参加者受入準備を進める。アメリカからの参加者には、和歌山城、万葉集で知られる和歌の浦、世界遺産に登録されている高野山や熊野古道、古来から現代に受け継がれている和歌山発祥のモノづくり産業、更には日本初の日米交流の実話や世界中へ移住者を輩出している県民性など、奥深い日本文化を持つ和歌山の魅力に触れながら、日本の生活の一コマを体験していただく。

また、ポストコロナ初の大規模国際交流大会の一例として「with コロナ時代」にふさわしい新たな交流スタイルを各自治体・団体および関連企業と共に確立しながら準備を進める。

和歌山市到着2日目のローカル・オプション・ツアーには以下の3

コースを提供する予定。

A:「和歌山城・和歌の浦」コース

B:「和歌山古民家・和歌山城」コース

C:「高野山」コース

ローカル・ツアー後、和歌山県主催のオープニング式典を和歌山県民文化会館で開催、それに続き、市内ホテルのレセプション会場にてレセプションを開催する。

大会3日目からは、以下の9の自治体/団体でそれぞれの地域分科会プログラムを3泊4日の日程で開催する。

- － 和歌山市
- － 橋本市(橋本ユネスコ協会)
- － 湯浅町(湯浅町および湯浅国際文化交流協会)
- － 田辺市
- － 白浜町(白浜町および白浜町国際交流協会)
- － 上富田町(上富田町および上富田町国際交流協会)
- － 串本町(南紀国際交流協会)
- － 那智勝浦町
- － 新宮市(新宮市および新宮ユネスコ協会)

大会6日目の和歌山県主催によるクロージング式典とそれに続くフェアウェル・パーティーは、田辺市にある県立情報交流センターBig・Uにて、ホストファミリーも交えて開催予定。

【 ポスト・サミット・オプション・プログラム 】

和歌山での大会終了後は、次の4つのプログラムを含めたポスト・サミット・オプション・プログラムの提供を予定する。

1. 京都ホームステイ二日と東京
2. 金沢ホームステイ二泊、能登ホームステイ二泊と東京
3. 京都フリー三泊
4. 東京フリー三泊

【 アメリカでの参加者募集活動 】

和歌山大会へのアメリカからの渡航参加者について、100人を目標とし、CIE-USのマーケティング委員会や、米国在住の既存の協力者からの支援を得て、募集活動を進める。全米各地の日米協会(日本協会)に対しても、NAJASのネットワークを利用して、インセンティブを示しながら募集への協力を呼びかける。

2. 日米草の根交流サミット 2023 オハイオ大会の開催準備

開催地：米国オハイオ州コロンブスを中心とした地域

共催団体：セントラル・オハイオ日米協会(JASCO)、CIE-US

開催時期：2023年10月

内容：JASCOとともに、大会までの行程表を確認しあい、準備を進める。日本での参加者募集活動については、和歌山大会までには簡易なチラシを製作し、大会期間中から広報を開始する。また本格的なホームページとパンフレットを2022年内に完成させ、募集を開始。オハイオ州および州内の市と姉妹都市提携をしている埼玉県および日本の市町村への働きかけも行う。

3. 日米草の根交流サミットオンライン同窓会 2022 の開催

開催時期：2022年5～7月頃

内容：2021年7月に開催した第1回オンライン同窓会のリクエストを受け、過去に開催されたサミット大会に参加した日米双方の参加者およびホストファミリー・スタッフを中心とした同窓会をZoom機能を利用したオンラインで開催する。人数的な制限が必要となるが、オンラインでの異文化交流、和歌山大会に向けたPRおよび日米双方の情報交換の機会とする。

4. 2024年以降の日米草の根交流サミット大会の開催地発掘

2024年以降の大会開催地の発掘を随時行っていく。

アメリカでの大会には全米日米協会(NAJAS)および各地の日米協会と、日本での開催については、都道府県の国際課や日米協会、また、万次郎および国際交流に興味のある団体と交渉を進める。

5. 広報活動

(1) ニュースレター「草の根通信」

令和4年度中に4回発行する。財団ウェブサイトに掲載するとともに、必要部数を冊子として製本し、賛助会員、寄付者、次年度開催地の関係者、ボランティア等に配布。和歌山大会開催に関する広報機能も有したものとする。

(2) 活動報告書(アニュアルアクティビティレポート)の刊行

内 容: オンラインサミットやユースサミット、交流プログラムなど、その他の令和4(2022)年度中の活動報告。日英の両言語表記。

配布先: 財団及び大会・交流プログラム関係者
広報資料としても活用。

(3) 電子媒体

① オンライン交流やウェビナー開催

新しい様式化への対応として、直接的な対面交流活動に支障が生じる場合に応じるために、オンラインを利用した日米交流や勉強会を用意できるよう準備する。

② ホームページおよび SNS の活用

最新情報や財団の活動全体を常時参照できるツールとしてホームページを利用してもらえるよう整備する。また最新のサミット大会情報にアクセスしやすいものとし、参加者募集により直接的に役立つものとする。また、今後電子書類やオンライン申し込みなど、メール配信による情報発信の促進につなげる。

以上